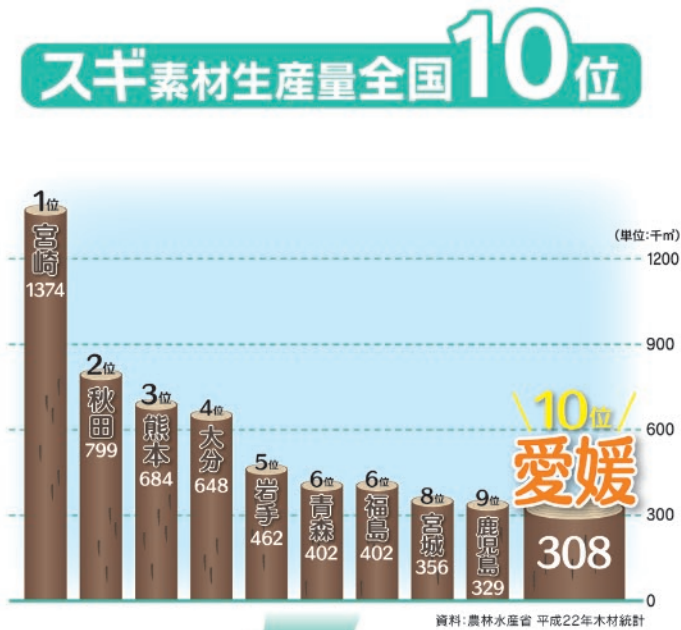
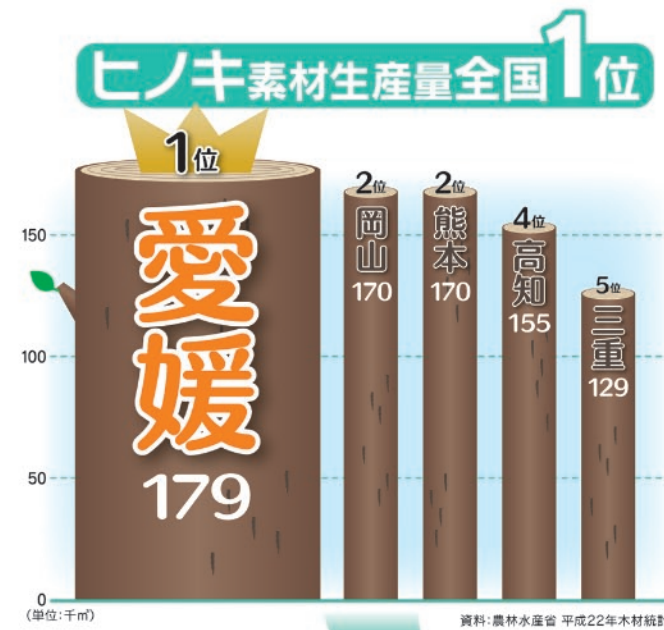


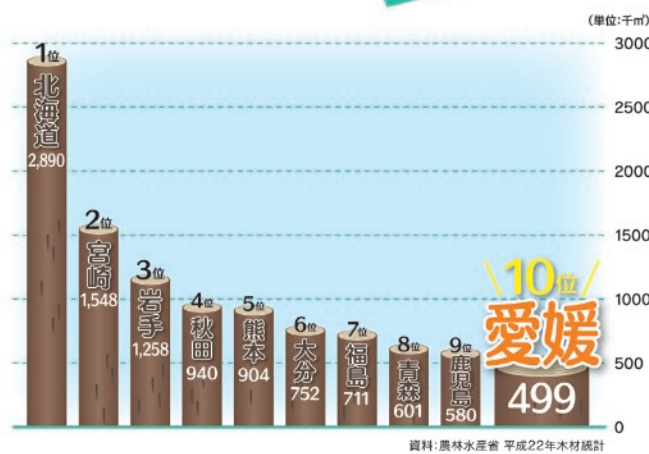
ヒノキのことは愛媛にまか

愛媛県のヒノキ素材生産量は平成19年から平成22年まで4年連続全国1位を達成しており、平成22年の生産量は179千㎡となっています。スギの生産量も全国10位に位置しており、平成22年は308千㎡となっています。

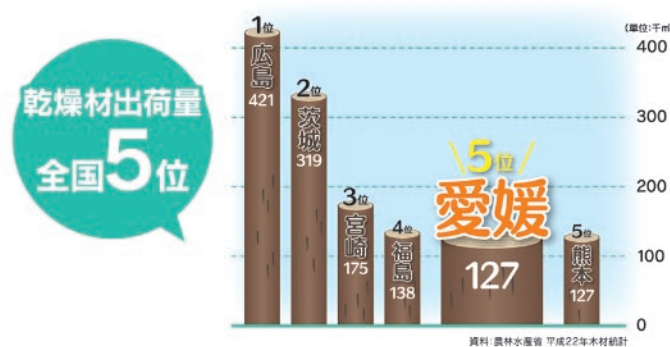


素材生産量全国10位

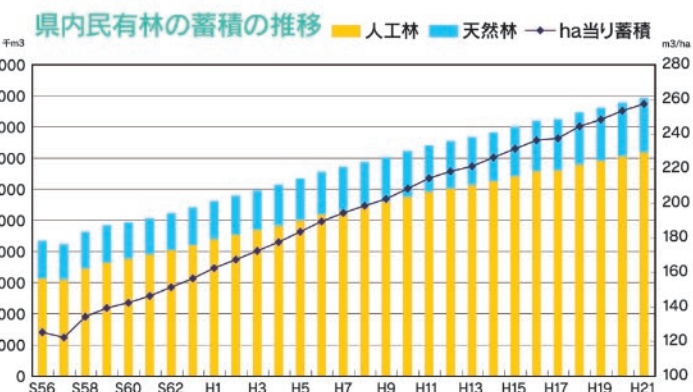
素材生産量全体では、平成27年度に生産量を650千㎡とするプランに基づき愛媛県と森林組合等が一体となり取り組んでおり、平成21年の生産量は466千㎡(全国11位)、平成22年の生産量は499千㎡(全国10位)と着実に上昇しています。



KD材の需要拡大に対応するため、各社とも木材乾燥機の整備に力を入れており、平成22年の乾燥材出荷量127千㎡(全国5位)となっています。



愛媛県の人工林蓄積量は年々増加しています。平成22年末の蓄積量は72,856千㎡・年間成長量は1,150千㎡であり、平成27年度素材生産目標値650千㎡に対しても持続した生産が可能です。



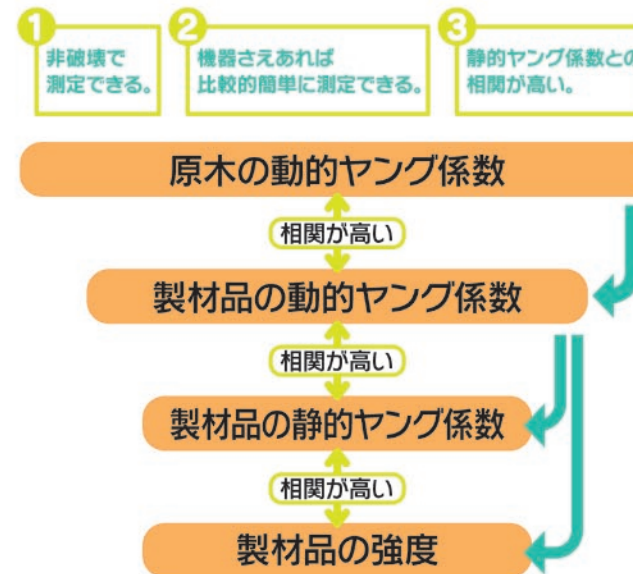
せる。～量・質そろった愛媛県産材～

愛媛県産原木(素材)と製材品の強度分布

原木と製材品との強度性能については相関が高いことから、県内各地の木材市場においてヒノキ原木1,700本、スギ原木1,000本の大規模な動的ヤング係数の出現割合の実証を行いました。(ヒノキについては全国初の試み) この調査によって、ヒノキE90以上が全体の97%を占める結果となり、愛媛県内全地域でE90以上の製品生産が可能であることが判明しました。また、製材品についても、ヒノキ・スギ各300本の動的ヤング係数の測定を行った結果、ヒノキE90以上99.3%、スギE70以上77.6%と高い強度特性の製品が製造されておりました。

動的ヤング係数を測定する意義とメリット

原木(素材)と製材品は相関が高い



ヒノキ原木の動的ヤング係数の出現割合

JAS規格機械等級区分E90以上の出現割合97%

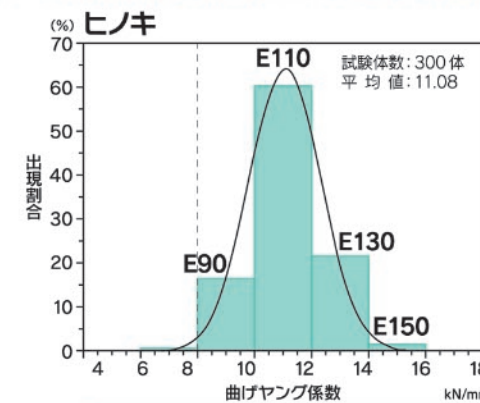


Jas等級	出現体数	出現割合	累積割合
E90未満	51	3.00%	100.0%
E90	605	35.59%	97.00%
E110	880	51.76%	61.41%
E130	156	9.18%	9.65%
E150	8	0.47%	0.47%

※含水率等未調整

ヒノキ製材品の動的ヤング係数の出現割合

JAS規格機械等級区分E90以上の出現割合99.3%

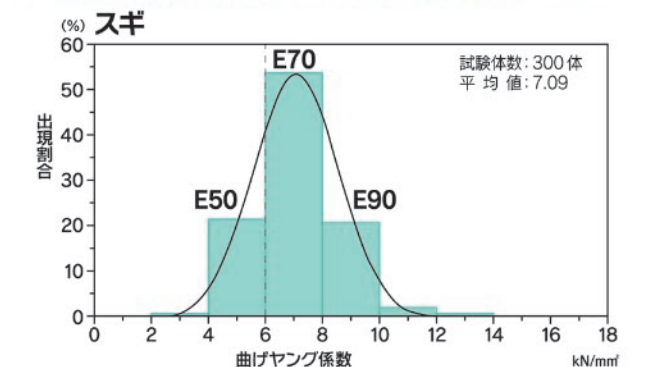


Jas等級	出現体数	出現割合	累積割合
E70	2	0.7%	100.0%
E90	49	16.3%	99.3%
E110	181	60.3%	83.0%
E130	64	21.3%	22.7%
E150	4	1.4%	1.4%

※含水率等未調整

スギ製材品の動的ヤング係数の出現割合

JAS規格機械等級区分E70以上の出現割合77.6%



Jas等級	出現体数	出現割合	累積割合
E50以下	2	0.7%	100.0%
E50	65	21.7%	99.3%
E70	163	54.3%	77.6%
E90	61	20.3%	23.3%
E110	7	2.3%	3.0%
E130	2	0.7%	0.7%

※含水率等未調整

豊富な資源・広範囲での強度調査＝大量・高品質材注文にも安定供給可能